

建築史・ドリル 1 2 < 日本建築史・宗教建築 6 >

エ．折衷様

鎌倉時代に入ると、日本を大地震が頻繁に襲うようになった。その結果、地震国日本で独自に発達した和様の寺院はほぼ無事だったが、大仏様及び禅宗様の寺院は次々と倒壊してしまった。これは、大仏様の「さし肘木」や禅宗様の「詰組」といった仕組が、地震の少ない中国大陸で生み出されたために、構造的に弱いといった欠陥をもっていたからである。そこで、大仏様や禅宗様に、地震に弱い日本の伝統的な和様をおり混ぜた様式が「折衷様」である。

折衷様 → 大仏様 + 和様、 禅宗様 + 和様、 大仏様 + 禅宗様 + 和様
・代表作：明王院本堂（広島県福山市）、鶴林寺本堂（兵庫県加古川市）など
山梨の仏寺建築

ア．大善寺薬師堂（勝沼町、国宝）

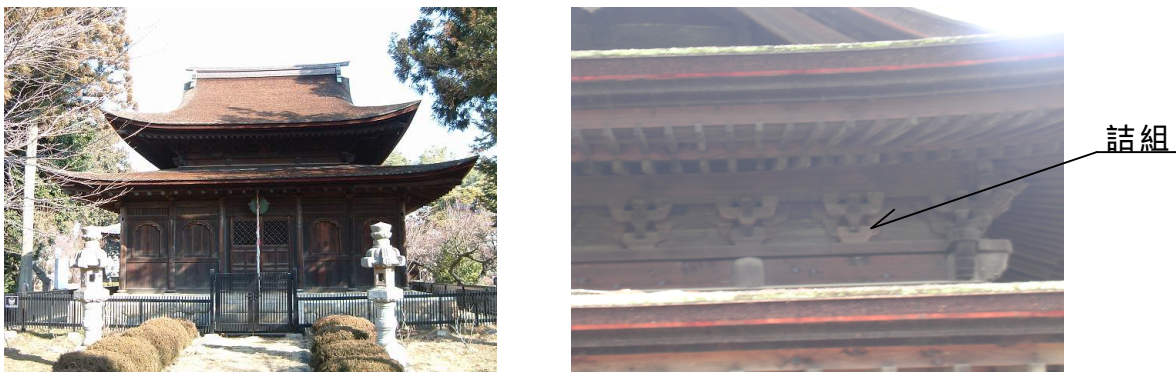
弘安9年（1286年）の建立で、築約七百二十年にもなります。山梨県では一番古い建物。桁行、梁間ともに5間の方形の寄棟造、檜皮葺で、軒の出の深さが力強い外観を作り出している。外部の組物は二手先。和様を中心に、四隅では、東日本では唯一という大仏様や禅宗様にみられる木鼻が裝飾された折衷様建築である。

木鼻
木鼻：柱の上部を連結する貫などの端が柱から突出した部分。裝飾的な彫刻が施されたもの。



イ．清白寺仏殿（山梨市、国宝）

むそう そせき
足利尊氏が僧 夢窓疎石（1275-1351）を開山として創立した臨済宗の寺院。
入母屋造の禅宗様建築で、鎌倉期の建築では円覚寺舍利殿に匹敵するといわれる傑作。
山門、仏殿、法堂が一直線に並ぶ伽藍配置となっている。
応永22年（1415年）建立の貴重な建築で、昭和30年、国宝に指定された。



【問題】 次の問いに答えなさい。

(1) 折衷様について「地震」という言葉を文章に入れて説明しなさい。

(2) 木鼻について説明しなさい。

(3) 山梨の仏寺建築において、以下の仏寺について説明しなさい。

ア．大善寺薬師堂

イ．清白寺仏殿